

会 議 録

会議名 (審議会等名)	令和4年度 第3回 川西市男女共同参画審議会		
事務局 (担当課)	市民環境部 人権推進課 (内線2411)		
開催日時	令和5年2月10日(金) 10時~12時		
開催場所	川西市役所 4階 庁議室		
出席者	委員	和田 聡子 委員 守 如子 委員 井之上 恵子 委員 岡崎 晴雄 委員 加茂 文子 委員 黒田 美智 委員 高坂 明奈 委員 林 拓朗 委員 福竹 優子 委員 松並 知子 委員 (欠席) 岸本 玲 委員 山田 静子 委員	
	その他		
	事務局	市民環境部 部長 岡本 匠 市民環境部 副部長兼人権推進課長 田中 肇 人権推進課 主査 森長 義一 人権推進課 主査 岸 琴乃 こども未来部 こども若者相談センター所長 木山 道夫 (指定管理者) 男女共同参画センター長 三井 ハル子 藤森 啓子	
傍聴の可否	可	傍聴者数	1人
傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由			
会議次第	議題1 川西市男女共同参画に関する市民意識調査中間報告について 議題2 その他		
会議結果	別紙のとおり		

【審議経過】

◆事務局より、本日の欠席委員の連絡と配布資料の確認を行う。

会 長	<p>皆様改めましておはようございます。2023年になりまして初めての会議ということで、また気分新たに、そして今回はプランを作るという大きな仕事がございます。皆さんのいろんな意見をいただきたいと思っております。そして良いプランにしていきたいと思っておりますので、いろいろと忌憚のないご意見よろしくお願ひいたします。</p> <p>そうしましたら、早速ではございますが、皆様のお手元の次第でございますね。こちらの議題、今日は大きなものが一つ、それからその他というところで、先ほど田中副部長からおっしゃっていただきましたように、たたき台も、結構重要なものになりますので、皆さん本日初めて目を通される資料にはなりますけれども、事務局からちょっとご説明いただいた後、皆さんからですね、ご意見いただけたらと思っておりますので、ご無理のない範囲で、ご意見いただけたら幸いでございます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>では、まず議題1でございます。川西市男女共同参画に関する市民意識調査ですね。こちら実施いただきまして、中間報告ということで事務局よりご説明よろしくお願ひいたします。</p> <p>議題1 川西市男女共同参画に関する市民意識調査中間報告について</p>
事 務 局	(事務局説明)
会 長	<p>はい。ご説明ありがとうございました。いろいろな意識調査をつくるに当たりまして、ほんとにこの審議会で、新たな項目を入れたり、ほんと時代の変化で、ある種ちょっと前回の比較は出来ないけれども、今後ぜひ入れなきゃいけない項目ということでいろいろと盛り込めた部分で、新たに分かることも今回多かったのではないかとと思っております。そういう意味では皆様、ほんとにご協力いただきありがとうございました。</p> <p>そして事務局におかれましては、クロス集計を含めまして、詳細にご報告をいただきましてありがとうございます。</p> <p>そうしましたら早速ではございますが、今事務局は一番特出すべきところをご説明いただきましたけれども、委員皆さまは専門的な立場とか、身近な部分で、ご説明なかったところでも、ここはちょっとというところがきつとおありかと思ひます。そういう点も、むしろどんどんご発言いただきまして次期のプランにつなげていきたいと思っております。どなたからでも結構ですので、挙手いただければと思ひます。ご感想でも結構ですし、ぜひよろしくお願ひいたします。</p>
副 会 長	<p>すごく面白いデータだなと思ひて、ありがとうございました。女性の仕事、働く率がすごく増えているっていうところが本当にこの数年でこんなになってというのがすごくよくわかるデータだなっていうふうに思ひます。ちょっともしも、このデータをさらに解析していただくことができるようだったらお願ひしたいのが、以前のこの紫のバージョンの時と現在で、未婚率のせいで、M字型の底が上がっているのかどうかを知りたいので、結婚してる人と結婚していない女性で、この状況ですね、就労率の違いを、この年度とこっちの年度で比較出来たら、結婚してる人、結婚してない人、こっちの年数、こっちの年数みたいなデータがあると、ちょっと、さらにどの時点で女性が仕事をやめているのか、あとだから、子どもが出来たタイミングなのかとか、子どもがいない人子どもがいる人でそれぞれ分けて、両方でちょっと比較してもらえるとどのタイミングで女性が正社員、仕事を辞めてるかが、分かるかなとちょっと思ひまして、そのデータをちょっと今後いただけたら嬉しいかなというふうに思ひたのが1点です。</p> <p>それから次なんですけれども、クロス集計表の1ページのところで、先ほど問1のところですね、</p>

	<p>「あなたは、どのような分野で男女の地位が平等になってると思いますか。」の項目なんですけど、何か私ちょっと今日改めてお話を伺っていて、社会全体が平等になってないって答える人が多いことはいいことなんじゃないかなって感じがちょっとして。なぜかと言うと、みんなが不平等に気づき始めている。あの、これまで当たり前だと思っていたけど、よく考えたらこれは不平等で言って、言っていないんじゃないかみたいな。そういう気もちょとしてきて、これを目標値にして高くすることを望むのは何か何ていうんだろう、それはどういうことなのかなってちょっと逆に思えたっていうところがありまして、これは感想です。</p> <p>それからあと、もう1点なんですけれども、ちょっと自宅でデータを見ててすごく面白かったのが、最近こう国でも話題になってる夫婦別姓とか同性婚、すごい高い皆さん達の賛同率だなというふうに思っていて、70代、80代の方は、やっぱりある程度反対の方も多いのかなと思ったんですけど、こんなに今すごく希望されてる人が多いんだなっていうこと。あと性教育もですね、学校でもちゃんとやって欲しいみたいな感じでしたので、川西の方々はずいぶん、ずいぶんか希望されてる方が多いんだなっていうふうにと改めて感じた次第です。とりあえず大きく3つ、以上です。</p>
会 長	ありがとうございます。今の3点につきまして、いかがでしょう、事務局。あの、まずできるところとか。
事 務 局	はい。
会 長	まず、1点目なんですけども、私も非常に注目したところですよ。30代のこの就業率のあまりの高さっていうのが、良い結果なのかが、ちょっと先生おっしゃったように、未婚率の高さでね、必然的に上がってるっていう、ちょっとその辺りが、これでは見えてこないの、ほんとにきっちり実証としてクロスかけてもらうほうがいいのかなという風に思いました。それは何かうなずいていらっしやっただので、出来るという感じですかね。
事 務 局	はい。前向きにやってみたいと思います。
会 長	そうですね。ちょっと細かい集計を。
事 務 局	前回のデータでも、もう一回クロス集計して比べることが一番理想だと思うので。努力致します。
会 長	そうですね。はい。よろしく申し上げます。どうぞ。
委 員	ひとつあの確認なんですけど、アンケートを2,000人の方に無作為抽出という形で、今回、年齢構成という形でクロス集計も出しているんですが、例えばこの無作為抽出の時の地域別とか校区別みたいな形で、バランスよくとられているのかということの確認をお願いします。
会 長	はい、どうぞ。
事 務 局	はい。ご質問ありがとうございます。 あの今回の調査につきましては、ICTとも相談、協議しながら行ったんですけども、ほんとのこと言うと各年代で例えば、200人ずつ男女200人ずつと、細かく設定して、本当だったら回収したいなという思いもあったんですけど、調査としてはやっぱり母集団をメインに比率を出したほうがいいというアドバイスを頂戴して、今回、●●委員のご質問の答えといたしましては、地区別、小学校区別、ではなくて川西市全体の年代別、年齢別、男女で比率に合わせて、母集団の比率に合わせた抽出にな

委員	<p>っておりますので、地区までのご意見のほうは反映できていないということでございます。</p>
会長	<p>ありがとうございます。はい。</p>
委員	<p>はい、どうぞ。</p>
委員長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>私も先ほど男女の不平等という部分だけではなくて、DVの女性が80歳以上の方たちの部分が少し高くなっている。この年代の方というのはやはり、いろんな社会背景や教育の形でいけば、もう男尊女卑が当たり前のようなね、生活をされてきていると思うんですね。うちの両親なんか見ても。なのに、やっぱりそういうふうなものが、暴力だけがDVではなくって、いろんな言動ですよ。そのことにしっかり意識が、持っていかれてるっていうのはやはり大きな部分かなと。ももとの若い方たちのDVもそうですし、デートDVみたいなことがクローズアップされてるのも、あ、これはやっぱりおかしいんだよね、変えていかなくちやいけないんだよねという意識が、やはりかなり浸透していったらいいなというふうな理解をさせていただきました。</p> <p>ただ、やはり就労というところでの捉え方の部分は、国のほうがやはり男女平等という形だけではなくて、女性をやはり安い労働力として雇用を進めていきたいというような部分での、派遣労働の拡大であるとかね、というような社会的な背景も含めて、随分影響を受けている部分があるのだな。だから、片方で、開放されて働きに行くという良い部分と、やはり安い労働力として、子育てや介護に、そちらにすぐにシフトしていったらいいような労働力という使い方の片方ではあるということも、認識をしておかないと駄目かなと。なので、なかなか介護や保育というような状況のところでは、施設等々もなかなか厳しい状況があるという半面と、そこで働く方たちの女性労働という状況がやっぱり厳しくなっているという部分があるなあと。</p> <p>それで、一つ国のほうの、基本的な方針のところ、私がちょっと引っかかりがあったところに、ちゃんとチェックをしたはずなのに。女性の働くというところで、キャリアを伸ばすとかね、というようなものが結構メインで入ってくるんですが、いえいえ、女性でも十分キャリアを持っていたり、能力があるのに、不安定な雇用のところにたくさんおられるというものすごいギャップですよ。だからそこが、女性の何か頑張りがないと、上がれないんだよじゃなくて、もうすでにそうなっていますよというところ、やっぱりシビアに見ていくべきかなと。だからそれが、この川西の市役所の中でも、正規職員の中の割合は、ほとんど5割5割ぐらいに近づいてきているけれども、会計年度任用職員さんなんかは、専門的な資格や、免許なんかを明確に持たれたキャリアの方たちが、ものすごく女性の割合がふえている。というようなところも合わせて考えていくことが、これからこの計画を進めていく大事な視点になっていくだろうなというふうな感想を持たさせていただきました。今回、今日クロス集計をね、初めて見せていただいて、説明を受けましたけれども、改めて本当にいろんな角度でしっかり見ていきたいし、この計画が本当に前に、進んでいくことをね、期待もしていきたいし、私なんかもちろんと声を上げて行動していきたいなというふうに感じました。ありがとうございます。</p>
会長	<p>はい。ご意見、ご感想ありがとうございます。本当に鋭い指摘で、次期のプランに本当に生かしていく内容だと思います。ありがとうございます。続いてどうぞ。どんどん、はい、●●委員どうぞ。</p>
委員	<p>今、●●さんがおっしゃられたことのあれなんですけど、DVについてなんですけど。この設問では、めちゃくちゃ細かいことで申し訳ないんですけど、DVとデートDVを同じ枠でくくってるじゃないですか。例えば、13ページの間23の「相談しなかった理由は何ですか。」っていうところの、一番多いのが、「相談しても無駄だと思ったから」ってあるんですけど。例えばDVで、ちょっと僕間違ってる</p>

	<p>かもしれないですけど、DVは結婚されてる方が暴力とかで、デートDVは恋愛関係の状態ということですかね。ということでしたら、普通のDVでしたら、なんですかね、いろんな所に相談したいなと、当然子どももいる可能性もあるし、市役所に相談しようかなとか警察に相談しようかなとか思うと思うんですけど、デートDVだったら、ただつきあってるだけだったら、別に相談する必要ないんじゃないかなっていう、相談したって無駄、別れたらいいやんっていう。ただ、結婚してたらそう簡単に離婚問題とかがあるから別れるのも難しいと思うんですけど。その、ただつきあってるだけだったら別に別れたらいいんじゃないかと、ただその別れられないようにするのもデートDVに含まれてるっていう可能性もあるとは思うんですけど。ここをちょっと一括りにして質問すると、ちょっと、ちぐはぐな回答になってしまう可能性があるんじゃないかなっていうのが、一点。ま、ただこんだけ細かい資料なんで、それ仕方がないかなというところもありますけどデートDVが最近出てきてるので、そこが加わってるのかなという気持ちはありますけど。分けてもいいのかなっていうのが1点と。あと、回答者数の年齢構成なんですけど、今回、ご回答くださった皆様が、一番多いのが70歳代なんですけど、今後の男女共同参画をするにあたって、なんとなくイメージなんですけど、今ご説明いただいたクロス集計表を見てると、30代とか40代で働き盛りの方とか、そういった方の対象の設問が結構多いので、もうちょっとこう、これは回答してくださる皆さんのあれなのでなんとも言えないところもあるんですけど、もっと若い方がやっぱり、ご意見というの、抽出したいと思う。年齢別でいうと50歳から70歳の方の意見が3分の2を占めてるっていう結果になってると思うので、どっちにしろ未来を作っていくのは子どもというか若者であると思いますので、その意見をね、もっと調査対象として数を増やす施策というか、何かあればいいのかなって思いました。以上です。</p>
会 長	はい、ありがとうございます。事務局、どうぞ。
事 務 局	<p>ありがとうございます。</p> <p>●●委員の、一つ目の質問については、私も、もうちょっとまだこれから分析したいなというのでこの審議会でちょっと、お尋ねしたいなというところもあったので、ご相談させていただきたいんですけども。今回DVを受けた方のところにデートDVというのを並列でしているのは、前回の審議会副会長と、●●委員のご意見を反映させていただいて、デートDVを並列で質問させていただいております。そのときに副会長が、これを例えば結婚、結婚してない方でクロス分析したらデートDVとか、DVの方がぐうっと抽出されるんじゃないかというご意見があったんですけど。今回ちょっとクロス集計が間に合わなかったんですけども、今、●●委員からのご意見を伺ってハッと思ったのが、理由までのところまで私考えてなかったんですね。確かにその恋愛の関係の場合でデートDVがあったら、別れればいいという考えの方も、たしかに若い方もいらっしゃるだろうな、そこまですとちょっと考えが及ばず、今回の分析の追加といたしましては、ここの項目に関して、結婚している方としていない方で、さらにクロスをかけた方がいいという形でよろしかったでしょうか。</p>
副 会 長	賛成です。ぜひお願いします。
委 員	ぜひお願いします。
事 務 局	●●委員、ありがとうございます。
委 員	すいません、細かいこと言って。
会 長	良かったです。確認と、さらなる分析になりますので、どんどん。

委員	すごく大きなことです。
会長	はい、続けてどうぞ。
事務局	はい。で、二つ目の若い方っていうのは、●●委員のご質問にもありました通り、確かに対象を若い方のアンケートを増やす、増やそうっていうのも、一旦考えたんですけども、やはりその人口の社会全体を反映する中で母集団の人口比率と合わせて、回答者数を抽出するという手段になったのですが、その30代40代の回答を多くしようと思って、Webも併用してやって結局2割の方なんですけども、その辺りも事務局としては次のアンケートの時にも頭の片隅に置いて対象の選定というのは、また協議していきたいと思っております。以上です。
委員	すみません、ちょっといいですか。
会長	どうぞ。
委員	すみません。Webで回答された、回答をしてくださいっていうのを送る時は、何で送ってるんですか。WEBって何の事なんですか。
事務局	あの、アンケートのところにWeb回答も出来ますよっていうのでQRコードをつけてるので、紙で返すのもいいし、ここからアンケートフォームに繋がってやっていただくのもいいですよということで基本的には紙を全員の2,000人に発送してるんですね。
委員	グーグルフォームのアプリ、QRコード読んだら、たとえば、どこに飛ぶんですか。グーグル…。
事務局	これはアンケート用のフォームを作ってるので直接同じようなアンケートにぽんと飛ぶ形に、グーグルフォームと同じイメージでいいと思います。
委員	何かその、よく最近QRコードで読めるので、若い方って多分QRコードぱっと読めば、そのアンケートに飛ぶじゃないですか。そのただ、アンケートのレスポンスが悪いと、途中で面倒くさくなるんですよ、大体。なんで、そこのアンケートのフォームが、例えば、グーグルのあれ、アンケートかな、アンケートフォームでよくあるんですけど、そんなんとかになってるんでしたら、やりやすいかなとか。もう何か選んでいくだけのね。
事務局	そんな感じにして頂いてるんですけど。
委員	じゃあ全然、なるほどなるほど。たまにかなりやりにくいのがあって、途中で諦めたりすることが多いんで。
会長	でも2割って言うのは、逆に意外に少ないなと思ったんですけど、もっと多いのかなと思ったので、その2割っていうのは年代はまたわかりますか。
事務局	そこまでちょっと調べてないです。
会長	またちょっと調べておいていただいて。

事務局	はい、わかりました。
会長	2割って言うのはどの年代が。
委員	70代がメインだからじゃないですか。だから、70代の方は紙で。
委員	そうですね。そもそもアンケートフォーム、スマホを持ってないとQRコード読めないですもんね。
会長	で、その2割の人は、ほとんど10代20代とか、30代までなのかね。ちょっとその辺を調べてもらいたいです。はい、ありがとうございます。他どんどん行きましょう。どうぞ。
委員	すいません。今のにちょっと関連してなんですけど。年齢でっていう、若い人の意見が抽出出来ないってことなんですけど、これそれこそ、年代別にクロスをかけるとか、またあの面倒くさいことをお願いしてしまうんですけど、年齢別にクロスをかけるとか、或いは抽出して、若い人だけを抽出して、若い人の意見だけっていうふうに、傾向を見ることも出来ますよね。それだったらこう全体だと偏りがあるけれども、若い人だけとると、また傾向変わってくるかもしれないので、よろしければまた面倒な事をお願いしてしまうんですけど。そういうのがあれば、また次世代の意見がわかりやすいかなと思うので。それとあと、ごめんなさい、ちょっとまたちょっと。
会長	はい、どうぞ。
委員	それとあと、またちょっと質問なんですけれども、家事についての家事育児についての満足度っていうのと、それとどれぐらい分担してるかっていう調査をされてますよね。それがそこはクロスかけてないんですかね。
事務局	クロスというのは。
委員	これ実際に、例えば実際にすごく家事育児を平等に分担してる方が満足度が高いのか、それとは関係なく実際の分担とかと関係なく満足度があるのかっていう関連を見るのがクロス集計になるのかな。そういうのがあると、それがわかればちょっと面白いかなと思いました。
事務局	わかりました。ありがとうございます。
会長	ありがとうございます。どうぞ。
委員	最後になるんですけど、結局なんか、先ほどの説明では、結構その意識の上では変わってきている平等になってきてはいるけれども、だけど実際にはなかなか実態追いついていないって話が多かったと思うので、なぜその実態、現実にはいろいろならないかっていうところで13ページ、じゃないか9ページ。結局働きやすくない。これは男女とも、働きやすさだけでしたね。労働条件が整っていないとか、保育介護施設が整備されていないということが、その働きにくさ、男女平等って広くて、これは勤務だけ、勤務状況だけに限られるてるかもしれないんですけど、あるのですが、今までにも何度か説明があったかのもしいんですけど、川西市としては、介護保護施設の充実とか或いは就労条件の充実っていうのは、他市と比べてどれぐらいっていうのは、何かとれてますかね。どうかと思って、それがちょっと条件に上がっていたので、現実はどうなのかなと思ったんですけども。

事務局員	その、そういう調査をどこかでされてるかどうかというところなのかなという感じはしますね。待機児童が何%とか。
事務局	いや、それは出ます。だから、阪神間で待機児童がどういう状況になってるかっていうのを出して、それをこう並べることは可能だとは思いますが。ただ、他市で、そのこのような調査をしてるかどうかというところもポイントになってくるのかなという感じはします。比べられるかどうかというところは。
委員	どれぐらい公表しているかもね。
事務局	一回確認はちょっとしますけれども。
委員	何かもし、市として例えばプランを策定するにあたって、一番やりやすいの、意識を変えるってなかなか難しいので、ただその設備を、何%アップとか、或いはちょっと就業就労状況であれば企業がどれぐらい、その女性に対して働きやすいプランをつくっているとか、そういう事は何%アップとかいうのは出しやすい、作りやすいのかなと思ったので、現状幾ら、何%で、目標になってあと何%になると、やりやすいのかなと思います。
事務局	ちゃんと把握はしてないんですけど、例えば保育所の整備状況とか、介護施設の整備状況とかそれぞれ計画を持っているので、おそらく何らかのこのアンケート的なものは取ってると思うんで、ここでの満足度っていうところを確認することができるかなという気はします。1回調べてみます。
委員	ありがとうございます。
副会長	すいません。よろしいですか。今の件でちょっと見てみたいと思った、クロスをお願いしたいのがあるんですけど、問10の、すいません、問11の女性が働きやすい状況にあるかどうかという項目とその問12の思わない理由について、現在の職業、女性の職業で構わないと思うんですけども、正社員の方と臨時雇用の方、無職の方で、全部まとめていただいて正規の仕事、非正規の仕事、今仕事のない方で、ここずっとクロスしていただけると、それぞれの方がどう感じているのかっていうのが、分かるかなってちょっと思ったので、お願い出来たらと思います。
会長	この9ページですね、A3の。今、先生がおっしゃってる問10と、問11あたりクロスのかけ方で随分見えてくるものがちょっとありますので、正規、非正規、無職。この3つでのちょっとクロス集計、かなり必要になってきますね。
委員	70代、80代の方なら無職の人が多という可能性がありますもんね。
会長	そうです。その辺もちょっと見えてきますので、事務局、そのあたりご協力よろしくお願いします。
副会長	すいません。今の話なんですけど、今の項目について、問10、問11については、見たいのは、現役の世代の人だと思いますので、高齢の方はいらぬ形で、あのすいません、まだ職を皆さんが持っている世代の人たちにその3クロスをしていただけると、どういう実感で働いてらっしゃるかっていうのが分かるかなと思いましたので、お願いできますか。

委 員	そうですね。同じく無職でも、休職中の無職と退職してからの無職とは全然違いますからね。
会 長	はいどうぞ。
事 務 局	高齢の方、70代とか80代でも今回就業率が上がってるんですけども、70代、80代の就業率の方のご意見っていうのをもうバサッとカットするのも、ちょっと違ってくるのかなと思うんですが。
会 長	おかしいですね、やっぱり。
副 会 長	必要でしょうね。
事 務 局	分析の仕方ということで、全体の分析をするのと、その年代の部分を取り出して分析するという形をできるかどうかというのは1回確認はします。
会 長	それこそ働く就業率のうえで70代の就業が増えているというのは、非常に重要ですから、落とすというのはちょっとね。
委 員	でも、そのやっぱり30代で働いてる人と70代で働いている人は意識が違う。
会 長	意識は違う。意識は違う。
委 員	やっぱり年齢は分けた上で、やっぱり取りこぼしするって言ったらますます大変なんですけど。
会 長	はい、●●委員、どうぞ。
委 員	はい、ほとんど感想になるかと思うんですけど。
会 長	もちろん、どうぞ。
委 員	あ、今おっしゃってみたいに、自分のなんていうんですか、自分の仕事としてずっと続けてての就業と、先ほど言われたみたいで、働かざるを得なくて、生活のため、例えば子育てのためにも、ある程度になったら学費がかかるとかいうので、本当は働きたくないけれど、働かざるを得ないっていう方もいらっしゃるかと思うんですね。そのやっぱりちょっと、違いみたいなのもあってもいいのかなと思ったのと。やっぱり働いていないところの理由にね、労働条件整っていないっていうのと、たぶん正職の方は今どんどんと育休が取りやすくなったりとか女性は。男性は取りにくいですけど。なってきたと思うんですけど、3年ぐらい取られる方もたくさんおられるんですけども。 やっぱり保育介護施設の整備が出来てないっていうところ辺は現実にあると思うんです。川西市今年、昨年度ゼロ%って言ってますけど、待機児童ゼロって言いましたけれども、現実には全然地域じゃないところに、今、配置されてたりとか、兄弟がバラバラだったりとか。本当にこれから実は働きたいけどっていう人は入れてない。もうすでに復帰しないといけない、もう働かなあかんっていう人がなんとか入ってるけども、本当はこれから仕事を見つけないだけっていう方は入れてない事実があるので、やっぱりそこら辺のことはまた調べてもらったらいいと思うんですけど。入れてくれるところがあったらもっと働きたいんだっていう人は絶対いてはると。私ちょっと保育施設にいましたので、すごく思います。なので、市民の方でも、もっと働きたい、もっと入れたい。だけど、条件が整わないから入れない。学童保育も非常にハードルが高い、預けるのに。だから働けないっていう

	方もいらっしゃるような気がします。意見、感想になります。すみません。
副 会 長	もう一つよろしいですか。確か、今回の調査項目、今ちょっとページが見つからなかったんですけど、仕事をしてない人には理由を聞いてたわけでしたっけ。違いましたっけ。仕事してる人には聞いてないんですよね、何で仕事してるかとは。
事 務 局	何でっていうところは聞いてないです。
副 会 長	ですよ。現在仕事をしていない人に対しては聞いてたんでしたっけ。 働く必要がない、とかそういう項目があった気が。子育てに専念したいという項目があったと思うんですけど。すみません、思い出せません。
事 務 局	えっと、付問2ですね、仕事をしていない理由はなんですかっていうところです。最後の。
会 長	21ページです。
副 会 長	すみません。ありがとうございます。こちらはあったけど、じゃあ仕事してる人の、なんかこう、仕事はどうしているかという項目は特になかったのですね。確認です。
会 長	一応、せっかくご出席の委員の方におかれましては、1回はちょっとご感想なり、言って頂ければ、どうぞ、●●先生。
委 員	私もこの最初のお話で、この男女の地位が平等になっていると思いますかっていうのが低くなっているのが気になったんですけども、全体的な意見、皆さん意識が高くなっておられるのかなというのは、感想めいたとこですけど、一つ思ったことと、あとはその、興味深いと思ったのは、問6の質問、細かい質問で、資料4の6ページのところで、年齢年代別に見ていくと、特に②と⑦についての質問「3歳までは母親が子育てに専念すべきである」というのと「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるのが良い」という質問で、結構まず年代別にギャップがあるのとともに、なんていうんですかね、女性の高齢の方、その割と全体的に意識が近いと思うんですけど、男性50代、60代、70代のあたりも、なんて言うんですかね、ギャップっていうのは結構あるなど、私はちょっと、驚いたんですね。女性の、50、60、70代の方の意識と、やっぱり男性の50、60、70代の方の意識の差が結構あって、特に、男性の「3歳までは母親は子育てに専念すべきである」というのは、60代、70代になってくるとほぼほぼ半々ぐらいの感じになってくるので、このあたりの意識をちょっと変えていっていただきたいなというのも思いましたし、特にその⑦のところの「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるのが良い」も50代男性も60代男性もかなりやっぱり「そう思う」の割合が高くなってきていて、ここもすごい驚いたんですね。女性の60とか50代の方は「そう思う」が10%台だと思うんですけど、男性になると何か突然過半数とまではいかないですけど、大概の方がイエスと言われるので、そこの辺りの理由っていうのが、何かもっと詳しく知りたいなというふう思ったんですね。 で、例えば問13の「共働き夫婦が育児休業や介護休業を取るとしたらどうするのがよいと思いますか」という質問も、年齢別にちょっとなんか同じように集計してもらったら、世代のギャップみたいなものが出てくるということであれば、やっぱりそのあたりの年代の方も意識を持って、もう少し高めするような努力をしないと変わらないのかなっていう気はしたんですね。やっぱりいくらこう施設が増えたとしても、「3歳までは女性は育児に専念した方が良い」というふうに思ってる人が多ければ、なかなかそれは、仕事を辞めて休業して、育児に専念しなくちゃいけないということになると思うの

	<p>で、何かここもやっぱりすごい驚きました。</p> <p>私は、離婚事件を受けることが多いんですけども、最近よく聞くのが、なんていうんですかね、姑問題って昔からなんか言われていて、なかなか不仲みたいな話があったりする、最近はそれよりも、義父さんからのそういう言葉に傷ついたっていう方の相談っていうのが結構あるんですよね。それはこの育児ギャップに関することだったりするので、要は女の人は子育てに専念すべきだっていうことで、なんていうんですかね、核家族化が進んでるので同居はしてなくても、やっぱり会ったときに何か「そんな仕事して」みたいに言われるっていうのもよく聞くんですよ。義母さんから言われるっていうよりもむしろ義父さんから言われるっていうことを聞いてたんで、これを見てほんとにそうなんだ。本当に感想めいた話なんですけど、数字でこうやってみると、すごく驚いたっていうのが感想です。本当にこの、女の子が女の子らしく男の子が男の子らしくのところも、本当にこんなになんか、女性と男性で、60代とかギャップがあるんだなというのは驚いたっていうのは感想です。</p>
会長	ありがとうございます。ほんとに嫁姑問題とかっていうのよりも…。
委員	こんなに差があるんだったら。
会長	でも、それがほんとに数値に表れてるから、すぐお気づきになられて。
委員	70代ぐらいの方が高いのかなっていうのはなんとなくそうかなと思ってたんですけど、割と50代の方とかも高いので、その辺りの方って、まだなんていうんですか、現役で働かれて、っていうかなんていうんですかね、そのそれこそ部下をもってという役職に就かれてる方がいらっしゃると思うんですが、そういう方の、上司の方に理解がないと男性が育児休業とか取るの取れないですよ。そういうのを数値を見て思いました。
会長	だから制度は整っても現実はそうだったということですね、意識の方は。ありがとうございます。はい、どうぞ。
委員	<p>本当に細かい調査結果ありがとうございました。すごく勉強になったと思います。特に女性の就業率っていうのが非常に上がってるということで、学校でもね、もちろん保護者のお母様ですね、本当に働いていらっしゃるお母さんは、もううんと増えてきたなというのは、もうね数年前と比べても全然変わってきたなというのは、本当に目のあたりに感じます。</p> <p>特に今のPTAの組織っていうのも、なかなか各学校によって違うんですけども、PTAが成り立たないというか、どんどんと切り換えとか、そういうふうにはPTAの仕事までできないというような、そういう形で、もちろんね、フルで働いていらっしゃる方も、休みの日に、何かこう、学校の何かお手伝い出来ないかっていうことで動いてくださる方も多いんですけども。PTAの方はよく地域にね、何かそういう行事とかそういうのにも駆り出されるというようなところが一番負担であるというような形で、やっぱり、先ほどお話あったように、地域にもそういうふうなね、言うたら失礼ですけども、コミュニティとか自治会とか、ご高齢の方も多いわけですので、そういう社会的にこう変化しているっていうことを、わかっていただくようにということで、私もなかなかそんな出せることは出来ないんですよというようなことはね、地域にも話もしているんですけども。</p> <p>でもそうやってPTAがだんだんと、なかなか動かなくなったら今度はよく言ってるコミュニティスクールという形で、保護者だけじゃなくって本当に地域の方巻き込んで、学校を見ていただくというようなそういうふうな国もね、施策のほうに移行していますので、何とかやっぱりね、全ての方のこの女性の、そういう意識っていうことがわかっていただくためにも、このようすすごいこの結果とか、</p>

	<p>このプランとか、そういうのもっともっと周知していただけたらなというふうに思います。はい、以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございます。現場からのこと、PTA問題っていうのも、男女共同参画の問題と非常に絡みますので、ぜひ、ちょっとそのあたりもまたご意見いただきたいと思います。続きありますか。●●委員どうぞ。</p>
委員	<p>全体的なんですけど。男女平等、男女参画っていうのが、正しい、悪いで進んでるところが、大きく目立ってるような気はするんですけど。それをもっと損得の面から見たら、どうなるのかなというのが、ちょっと思って、その70代80代の人意見を今更変えるっていうのは、何か本人が変えたいと思ってたらあれだけど、これまでうまいことこの意識で生きてきて、なぜこれを変える必要があるんだってなったときに変えたほうが得ですよって言うほうが、変えたほうが正しいですよというよりも、よっぽど説得力があるなと思うんですけども。これでどんだけみんなが得をするのかっていうところのポイントって、もっと上げていったほうが良いのじゃないかなと思います。</p>
会長	<p>また違う視点っていうか、そういうので意識っていうのは本当に、正しい、正しくないって、損得の部分で動いてくれるって、人間の心理的なものですよ。</p>
委員	<p>そうですね。そもそも後からついてきたら、それでいいんじゃないっていう気もします。</p>
会長	<p>意識を変えるいろんな方の労力を思えばもっと違うところで動けというまたなんか違う視点。また面白い視点、いろんなお考えがあるので、ぜひこういうところを出していただきたいと思います。●●委員いかがでしょうか。</p>
委員	<p>はい。そしたら、ちょっといくつか質問を出させていただきます。</p>
会長	<p>はい。どうぞ、どうぞ。</p>
委員	<p>一つはですねこれ、これは「仕事をしていない理由」のところですね、分析されてやっぱり「定年・高齢のため」が圧倒的に多い。このグラフに目を奪われがちなんですけどね。ここではない、私正直、あんまり分析意味がないと思ってます。何でか言うと、先ほども出ましたように年齢層が高い人が入り込んでたら、本来、例えば先ほど女性が、やっぱり活躍というかしにくい理由は、例えば一番大きな労働条件の問題と言われてるんだしたら、それはその労働条件、どんなところかっていうのもね、もう少し奥深く切り込んでいくためには、例えばこういうところをね、今の就業年齢といいますかね、例えば50代までと、60以上の人で、こころ辺を分けてみたほうが本当はいいんじゃないかなという気がしてます。で、それによって、このほとんど「定年・高齢のため」は関係なく、他の、例えばこの中のウエイトが高いのはどういうところか、例えば経済、なんていうかな、求めている意識も薄い、仕事はないからとか、時間、終了時間は合わないからなんか、何がやっぱり非常にそう思われているのは、ウエイトとして高かったらいうのをね、もう少しクローズアップしたグラフにしたほうがいいんじゃないかないうのは、一つ意見です。</p>
会長	<p>その一つ目のご質問なんですよね、21ページの多分見てらっしゃるのは、資料4、21ページですけども。こちらですよ。A3の21ページです。今おっしゃった、その付問の2のところで大きく「仕事をしていない理由は何ですか」「定年・高齢のため」で一番上でボーンと出るんですけど、それをクロスすると下のね、年代別に、今おっしゃった「定年」はやっぱり、ここで出ますので、これがクロスの良い</p>

	ところですので、若い方の理由と、高齢者の理由はもうれっきとして違う。
委員	わかりました。失礼しました。
会長	どうぞお続けくださいませ。
委員	あと一つ質問なんですけどね、子育てのところで、育児時間がゼロというのは、1割もあるんですけど、これは質問としては、これ、子どもを持たれてる方にご質問したんですかね。 ええとね、13ページのところの、「1日のうちであなたが育児に要する平均時間は何分ですか」で、0分というのは10.8%あるんですか。1割の方がおられる、平日も休日も。子どもさんを持たれている人に質問したのか、それとも全体にというんですかね。
事務局	そうですね。対象がいらない。そうですね。全体に対してのですね。単純計算の13ページのところですね。
事務局	対象がいないって、ちゃんと書いてらっしゃる部分半数ぐらいだと。
委員	はい、半分やね。この方は除くと。ということは残りの方は、これ対象がおられて、そういう時間ということですね。
事務局	そういう形だと思います。
委員	ということは、案外1割も、子ども持ってても、育児時間にはないという。18歳とかなんかやったらというような感じになるんですか。育児というのは、一般的にはどのレベルになるんですか。それとも、18歳の子どもでも、それ育児っていうのか、やっぱり私のイメージは乳幼児っていう感じになるもんやからね。0分というのは、どういうあれで出てきてんのかなと、ちょっと疑問に思っただけです。ここは。
事務局	育児ですから、小さい子どもさんがいて全然育児に関わっていない人が、1割いてるということだと思うんですけども。
委員	それ、ネグレクトの、問題なのはあれですよ。
会長	事務局どうぞ。
事務局	すいません。資料の2ですね、実際に配った意識調査をご用意してるのですが、ちょっとそちらをご覧くださいたいんですけども。これが実際に市民の方に配られた調査票になっております。これの一番最後の15ページをご覧くださいますと、「一番下のお子さんの就学状況を教えてください」という設問があるんですね。なので、●●委員が今おっしゃったように、例えばここで小学校、中学校、高校を持っている人の育児時間っていうのがクロスかけれるんじゃないかなと今思ったんですけど、いかがでしょうか。
委員	なるほどね。0歳に、0時間にそのあれがクロスで出てくる。
事務局	そうですね。例えばもう大学も学校も終えた大きな例えば二十三歳、二十四歳のお子さんと同居

	されてる方。
会 長	0分がすごい多いですね。
事 務 局	「対象がいない」、いないのはたぶん高齢者。高齢者になるのかなと思うんですけど、その0分とかもあるのであれば、どのぐらいのお子さんの方から育児時間がかかっているのかっていうのは、ちょっと調べることができるのかなとは思いますが。
委 員	わかりました。ちょっといっぺん、ちょっと0分って本当にあり得るのかなという。
委 員	その詳細はちょっとわからないので、ちょっとクロスをかけてみて、ちょっと結果をみて見たら良いですね。
委 員	あとちょっと一つだけなんですけど、あとワークライフバランス、18ページですね。ちょっと案外、感心したのが、あれやったんは、当然ながら家庭生活とかね、仕事、家庭生活共に優先させたい、これはもう皆さん自分も今されてるし、多分、希望のところを言いたいんですけども。ここで、地域、個人の生活が入ったところが案外希望で上がってるんですよ、率としてはかなり高い、希望されてる感じなんです。それに対して、その地域、個人の生活では、この間16の自治会とかコミュニティ、こちらへんに入ってるかっていうんでは、前回より下がってるんです。 だからあまりされてないのが多いような気がするんですけども。こちら辺だから希望するのと、実際に入ったら、そこら辺で希望してる人らのね、年齢というか、そこら辺はどんな感じになるんですかね。いや本当はね若い世代の方は、地域も一緒に活性化させるために自分も本当は活動したい、だけど、今働いてるからなにも出来ないんだとか、それだったらまだねいろいろ理由ははっきりするんだけど。そこに何がちょっと障壁になってるのかな。せっかくこういう希望を持たれてんのに、なぜそこまで踏み込めるのか、先々ね。案外ね地域に個人の生活が入ったところを希望されてるの。ちょっとね、私の今、私も現役のときはもう本当がむしゃら働いて、もう妻に任せてね、地域の、そんな感覚がなかったんで。案外ね、案外これはもうゆとり出来て、老人が暇出来たからなあという思いなんか、若い人がそういう思いに変わってきて、やっぱり地域が大事やと思い出してるのか、これ非常に重要なところじゃないかなという気がするんですけども。
会 長	はい、ありがとうございます。
委 員	以上です。
会 長	はい。それは、資料4、A3の方の11ページで、ここクロスがかかってないので、やはりちょっとその辺かける必要ありますね。今言っていたそのバランスがほんとに、どういう年代層でバランスをとっているのか、それが見えないので、おっしゃるように。どういう活動でっていうのと、それと間15と間16も非常に関連もしますし、年代層でワークライフバランスをどう考えていくのか、ほんと良いご指摘いただいたと思います。そのへん、事務局、ちょっとクロスかけていただければと思います。 一応全員1回のご発言いただいているんですが、さらにという方で、何か●●委員、何か、お有りになるような感じですけど違います。
委 員	いや、大丈夫ですよ。ありがとうございます。

会 長	大丈夫ですか。
副 会 長	すいません。何度も何度も申し訳ないんですけど、先ほど●●委員と●●委員がおっしゃったことでちょっと思ってたんですけども。特に今回見えてきたのが、ちょっと高齢というか、50代以上の男性たちがちょっと他の人たちとすごく意識が違っちゃってるみたいなのがすごく見えてきて、若い男性は実はでも、結構なんか「いやあ、子育てもお母さんに任せないで自分もやりたいよ」ぐらいの感じじゃないですか。そういうギャップを示してあげることで、何かその何て言うんですかね、正しいよじゃなくて、みんなこう実は思ってるんですよみたいな感じなんで、若い人たちの若い人たちの希望を叶えてあげる社会を作る必要ありませんかみたいなぐらいのところを持っていけないかなって、ちょっと思いながら、お話伺っていた次第です。すいません。
委 員	意識として、こうなんていうのかな、LGBTとかでも、いやいいですよ、いいですよ、全然いいですよって言うてる人って自分には関係ないからいいですよって言うてる人が多いのかなっていうので、今回のアンケートとかも、男女平等そりゃいいって言うてる人が家では、お前ちゃんとしろって言うてるんだったらその、個人の考えと、全体で社会はこうだろうなという考えのそのギャップっていうのは、計る術ってあるんですかね。
副 会 長	そうですね。その方個人個人の分析できるでしょうけれども、全体としては平等になるべきだって言うてるけど自宅では全部任せきりでそれで満足してるとか、そういうことは、もちろん抽出することは出来ると思うんですけど。
会 長	今の50代の方に、本当あまりにこういう意識がまだ残っているっていうのは、結局今の10代や20代のその上司や先輩になりますので。その押しつけでまた社会としてね、結局10代20代の気持ちや意識が変わってる男性たちが、また何かそういう上司や先輩たちに自分たちの自由だったり、平等感とか、育児だとかそういうのが出来ない、何かこう、続いてしまうんでは困る、その辺をちょっとやっぱりプランでも出していけたらというのがありますよね。本当、あと、●●委員がおっしゃる、50代の方が、「いやいやいいんだよ。君たちやりなさい」とか言いながらも、どこを変えていったらっていうのね、先生、いかがなんでしょうか、その辺。難しいですね。
委 員	でも、私もう諦めて、もうその方たちが、おうちでどうか、例えば、先ほど言われたお嫁さんに言っているのも、そこはもう仕方ないで諦めて、せめてルール、会社では、育児休暇をとりたいと言った人は邪魔しないと、何か少なくとも意識はほぼもう仕方ないとして、ルールとして、会社とか公の場では、これは決まり、これは決まりだからっていうの作って、しかもそれをみんな従いましょうみたいなしかないかなって気はするですけど。
副 会 長	ただその若い世代は男性も意識が変わってるんだよって知ることって、そこがまず一歩かなっていう気もちょっとしました。
会 長	そうですね。これだけ変わってきたっていう。
副 会 長	そうですね。こんなにこれだけ違う、意識のギャップが、男性同士でもあるんですよ、みたいなことを言うと、女の方はそう言うかもしれないけど、みたいじゃない感じで、また新しく受け止めていただけんじゃないかなっていう気もしました。
委 員	そうですね。知る事は大事ですね。

会 委	長 員	<p>はいどうぞ、●●委員。</p> <p>だと思っんですね。例えば私、今60代なんですけど、私がそれこそやっぱり働く、正規で働くなんていうのは、もうめったとないというような状況でした。育休も、看護師さんとか教師とか保育士にはあったけれども、それすらなかった時代なんです。で、そういうふうなまだ年代が、50代の後半の方たち、60代にはもうたっぷりおられるっていうような部分もあるんだけど、片方では、退職した後に、やっぱりちょっと家のことをちゃんとやらなければならないよねというような教育も受け始めている年代であると思っんですね。</p> <p>だから、数字を見たら、もちろんちょっとっていう部分もあるけれど、ちょっとの中に、変えなくっちゃ変わらなくっちゃっていう人たちも出始めているという部分と、それから、この30代でも、私たちの子どもの年代っていうのは、本当にやっぱり、男であるとか女であるとか、それこそ仕事をしてないじゃなくって、家のことをする、子育てをすることがずいぶん、よくなってきていると思っんですね。</p> <p>なのでやっぱりそういうふうに変化が変わっていく。それで、その背景には先ほどおっしゃったように、制度がやっぱりものすごく変わってきている。で、どちらが先かっていうのは別ですけども、どちらもやっぱり影響し合いながらなってるんやなあという部分はものすごく実感をしていますので、大きく、私たちの親の本当にまだ明治の教育を受けてるようなうちの親なんかの年代が、これから10年20年となったときはなくなる。で、今、本当に10代20代の子たちが、今度また親の世代にっていう次の時代をね、担っていつてくれるというところ、やっぱり期待をすべきところやなど。なので、私は先ほど正しいとか悪いとかでござい、ちょっとやっぱ大事だなと思っんです。だからね、間違ってるって言われたら嫌です。だから、やっぱりプラス思考でこうなってますよねとか、いうことが大事やなど。特に私らの年代のところではね。自分の連れ合いのことを、主人っていう方がやっぱりものすごく多いんです。でも、話をしているときに、あなた主人っていうのはねっていうのを言われたら、いやいや。だから、ここの中にも出てきましたけど、それぞれのやっぱりうちのやっぱり一定の、今までの歴史的な経過があるというところをやっぱりしっかり認めること。でも、その中で変化が起こっているよっていうところを、プラス思考でとらえていくっていうのがすごい大事かな。</p> <p>直接私らもいろんな、ちょっと私よりも年代の高い方たちのところではね、自分は嫌だけれども、今それを夫に伝えるとけんかになると。でも、今更夫婦でこの年齢でけんかしたくないから、私は我慢をして、よそで吐き出すのよという方たちが結構いてはるんです。だからやっぱりあの、それぞれのところで、これは駄目じゃなくって、みんなこう、それこそ世界はもっと変わってるし、私たちの国も変わってるよ、で、私たちの地域も変わってるよね、だからみんな変わっていきよっていう、プラス思考の方向で、物事が進んでいつてくれたらな。</p> <p>だからこの計画も何かこう追及をするものではなくって、もっとこれを、せっかく目標を決めたんだから、みんな乗っかっていきよっていうような、方向のやっぱり計画になってくれたら、とてもいいなというふうに思いますし、そっちを向いてるのは確かなのでね。ただ遅々として進まないところも、先ほどの報告ではあったので、そこはさらに、もっとみんなで意識を持つて人たちがやっぱり意識づけを、周りに広げていくということが大事なんだなというふうな、やっぱりあの地域で、生きてても実感をしています。</p>
会	長	<p>はい、ありがとうございます。一つ、私は経済学部の人間なので、言わせていただくと、経済成長と男女の関係で言いますならば、もうずっと今クローズアップされている賃金問題ですね。今、インフレになりながら、賃金が上がらないっていうので、日本だけが世界の中でも特出して、この30年間賃金が上がらなかったという国で、よくこれだけの低い経済成長といえますか、経済水準でそこそこの生活をしてると。そうなりますと、おのずと高度経済成長期に、この意識の格差として、やはり</p>

	<p>男性は外で働いて、すごい給料を持って帰ってくる。で、女性は家事労働するっていうそういうのが、何かすごい賃金で上がっていた時代の意識のギャップと、今はもう男性も女性に働いてもらってダブルインカムでちょうど生活としてやっていけるというですね、皮肉にも賃金が上がらなかった部分で、女性がもう働いてくれと男性のほうがちろろありがたいという思う、意識になったということですね。これは、あまりいい意味での意識変革ではないけれども、おのずとそういう日本のこの賃金が上がらなかった社会構造が、女性の社会に出て行ってもらうことになった。そこでよくなかったのは正社員じゃなくパートになってしまったということですよね。非正規でとりあえず労働してくれというふうになった、そこはやっぱり問題であるので、今回こんだけいろいろ賃金の問題と正社員の問題と言われてますので、その辺をうまく時代の波に乗ってですね、女性の労働もうまく乗っていきける、やっぱりプランの中にそういうちょっと何か、ことも入れていきたいなど私なんかは思うんです。世の中の風潮がこういように、賃金も上がり女性の労働というその枠も、本当に働きたいその正社員の確保っていう部分ですね。</p>
	<p>それと、先生方もおっしゃってた施設ですよ、子どもたちをちゃんと入れる、待機児童の問題、それから介護の問題そういうのもちゃんとしていく整備も必要になってきますから、いろんなことが本当、今回のプランというのは社会の反映そのものという部分もありますので、ちょっとそういう賃金の話はあまり出なかったですから、少し皆さまに、意識していただいて議論いただけたらなというふうに思っております。はい、ありがとうございます。</p>
	<p>じゃー応ですね、議題1、また気になったということは、追って、皆さま、いつでも言っていただきたらと思いますので、とりあえず議題1、ここまでにいたしまして、もう一つ、その他となっておりますが、実は、ちょっと事務局にしっかり作っていただいた横書きA4ですね、第4次男女共同参画プランの枠組み、たたき台を作っていただきましたので、こちらのご説明、では、よろしく願います。</p>
事務局	<p>議題2 その他について (事務局説明)</p>
会長	<p>はい。事務局、ありがとうございます。皆さま、今日お持ちかどうかですけれども、こちらですね、参画プランの改定版の、目次ありますよね。こちらが現のものが、6つの基本目標なんですけど、ちょっとスリム化と言いますか、統廃合いただいて、すっきりさせていただくことから、5つの目標で行くという、枠組み、たたき台でございますので、今後ちょっと言い換えだとか、文言とかこれから変えていくんですけど。大体の枠組みとして、皆さまに、よりいいものということですので、今お示しましたこの6つから5つに、時代の変化とかですね、いろんなことも入れながら、5つに事務局が作成くださったということになります。</p>
副会長	<p>今日ですね、今、審議と言ってきましたけれども、ご覧になって、今の段階でこの辺りにこれを入れておく必要があるんでしょうねとか、何かそういうご提案、ご意見、で、その辺はきっちり事務局に持ち帰っていただきまして、その基本課題の中に詳しく入れるとかですね、施策に入れるかとか、そういうことを今後していくということになりますので、今日ご覧になった段階でですね、ちょっとお気づきになったところなんかはぜひ言っていただけたらと思います。はい、願います。</p>
事務局	<p>ちょっと質問なんですけれども、ちょっと6番の「様々な困難を抱える人たちへの支援」の中の項目がちょっと今ひとつ、なぜこれがこのタイトルの中に入ってるのかが、私にはちょっとしっくりこない感じで。例えば、スポーツ活動とかは7番の健康づくりじゃなくて、6番に入っているのはなんか、これは意味があるんでしょうか。</p>
	<p>すいません。施策の方向のところまではまだ深く練っておりませんが、確かに先生がおっしゃるように、確かに健康のほうに入れるべきかなというふうには、今ご指摘いただいて思ってる次第</p>

	でございます。
会 長	じゃ、今、基本課題、基本目標、施策の方向までは、ちょっと、そこまで。
事 務 局	一応振り分けたつもりではいるんですけども、はい。ちょっとまだ、はい。
事 務 局	ご意見いただいたら、当然反映させていただきます。
委 員	すいません。
会 長	どうぞ。
委 員	あのこれ、先ほど6番で、④の新しく増えたこの「多文化共生」というのは、ちょっともうひとつ、私はピンとこない。これは、どういう意味ですかね。海外の方とかそういういろいろ、そういうような人を言うんですかね。
事 務 局	川西市内にも、外国籍の方が、随分おられます。川西能勢口近辺では、外国籍の子どもさんも増えておまして。で、これ日本語自体がわからない、読み書きが出来ない子どもさんも多いんですね。で、そういう方の男女共同参画っていうのも共に進めていけないといけませんので、その辺のところ、一つ、特別な対応が必要なものということでちょっと掲げさせていただいております。
委 員	いいことだと思います。海外の方が増えてるのは、多いですからね。わかりました。
副 会 長	じゃ、よろしいですか。えっと、すみません。その6番の「様々な困難を抱える人たち」に、青少年の薬物乱用とか性感染症予防っていうのも、これも何か困難を抱えてる人なのかちょっとよくわからないなっていうふうに思ったんですけども。何か私が様々な困難を考える人たちっていうと、例えば貧困世帯の問題とか、そのなんて言うんでしょう、母子、父子家庭とかそういった何か話を、どこ、どこに入るのかなって思ったりしたんですけども、それはいかがでしょう。
事 務 局	そうですね。「様々な困難を抱える人たち」というくくりで、いけるかなというふうになんかちょっと思ってたんですけども、そうですね、確かに。そうしましたら、「様々な困難を抱える人たちへの支援」というところをちょっと文言を変えていくような。
会 長	ちょっとそっち側に無理があるのかもしれないね、うん。
事 務 局	わかりました。また、いい案がございましたら、いただければありがたいなと思います。
会 長	はい、どうぞ。
委 員	今のその、様々な困難っていうのであれば、①番の性の多様性っていうセクシュアリティの、LGBTとか、そういうセクシュアリティの問題ももしかしたらここに入るかもしれないので、それもその、その性の多様性に関する理念とかそういうのは、この1番なのかもしれませんが、実際にそれで困ってる人を助けるかサポートになると違うところになるのか、その辺はどうなのかなとは思いました。

会 長	はい、どうぞ。
事 務 局	まだちょっと具体的にそういったところは煮詰めてないんですけど、私の今の感覚としては、性の多様性っていうのは、ここっていうんじゃなくて、もう横断的に、施策の横断的に関わってくる問題だと思うので、ここで言う性の多様性ってのはまずは啓発を重視、啓発を積極的にやっていこうというイメージで書いていて、全く他の施策で性の多様性を加味していないというわけではなくて、もちろんその横断的な視点では取り組むんですけども、まずは啓発というところでここを上げていた段階なんです。なので、その●●委員の意見を、また今後の参考にさせていただきたいと思います。
会 長	どうぞ。
副 会 長	それで様々な困難というときに、それぞれのマイノリティグループの中にも男女の問題ってあると思うんですね。例えば障がい者に対する施策の中の、そこにもちゃんと男女共同参画入れていただきたいっていう感じで、何ていうんでしょう、様々な、多文化共生はここでばんっと打ち出されてるんですけど、それぞれの施策における、何かうまく言えないんですけど、様々なマイノリティーに対する課題の中にも男女共同参画の視点を入れていくっていうような形で、包括的に何かこう位置付けていただいてもいいのかなっていうふうにちょっと思いました。
会 長	はいどうぞ。
委 員	9番の上、配偶者等からのあらゆる暴力というのは、パートナーなどとかの方が、もうちょっと含まれていいのかなという。
委 員	それだと、デートDVは入らないですよ。配偶者って限定してしまうとね。
会 長	多分、等が入ってるから。
委 員	そっちに入るのかなと。
委 員	もし許される、使ってもいいんだったら、パートナー等にしたほうがわかりやすい、カタカナとかそういうの使ってもいいのであれば。
会 長	パートナー等で、配偶者もちろん入る訳ですからね。
委 員	あと同性婚とかも。
会 長	もちろんね。
委 員	事実婚も、入るんで。それも、配偶者だと事実婚も入らなくなってしまうので。
会 長	等が入るから、事実婚も。
委 員	そうですね。
会 長	要するに配偶者というふうに言われるか、パートナーって言われるか、やわらかい感じで、どちら

	を使うか。
副 会 長	ただ、国の法律もまだDVを配偶者等にしているところですよ。
会 長	そういうのに則ってらっしゃるのであれば、等のほうにパートナー、同性婚も全部入れる。お役所のスタイルに則っていらっしゃるんですけども。
事 務 局	あの、議論のいるところだと思ってるんですね。ちょっといろいろご協議いただいてですね、やっぱりこうすべきだと、いうものがあるのであれば、それをもうご提案いただくことは要るかなというふうに思います。役所がこうだからこうするっていうのは、やっぱり違うんじゃないかなと思います。
会 長	それを他の委員会もそうだと思うんです。お役所のほうだからというよりも、今ってやっぱり地方分権で地方発で自治体発で、こっちから変えていけるものは変えていけるっていうね。だから、岡本部長がおっしゃったように、むしろこれから皆さんがパートナーを使う機会の方が多いいねとかみたいに、例えば変えていけることもあるでしょうし、その辺も皆さんとご協議出来たらと思います。
委 員	はい、会長。
会 長	はい、どうぞ。
委 員	<p>はい。なかなかこの男女共同参画プランのね、この名称もいつも話題になって、でも国の法律がこうだから仕方がないよねっていう着地なので、この施策の方向のところもやっぱり基本課題のやっぱり男女平等という言葉にくくられてしまうというところは、やっぱりまだまだこれから変えていかなあかんねんと思うんですけど、今のパートナーの部分、私はやっぱりパートナーがいいと思います。配偶者等の「等」を、きちんと読み取れるかどうかというところ、なかなか難しいので。でもパートナーとしたらもう今は比較的、配偶者であってもパートナーと呼ぶし、お付き合いしている方もパートナーというふうなのが、結構あるので、基本課題のところでもいかならばね、別にパートナーでもいいのかなというふうに思っています。</p> <p>それで、今日これを見せていただいて、基本目標の1のところ、人権尊重という言葉、入れていただいたのは、ものすごく歓迎をするものです。市の全ての施策にやっぱり人権っていう取組をね、明確にやっぱり入れていく。その人権のところには、ここで話をしている、本当に一人一人の特性や個性が大事にされるまちづくりをするんやでっていうところ、大きな柱が1本あればいいなというふうに思っているんで、これはすごいステキやなと思ってます。</p> <p>で、まだまだこれからということなので、ぜひその施策の方向性のところで、もちろん啓発等は大事なんだけれども、先ほどのDVやデートDVなんかも、これからまたクロス集計なんかで明らかになりますし、いろんな働き方というところではね。相談体制だけではあかんのですよ。相談しても結局解決しなかった、だから諦めた、っていうのもちょっとやっぱりよく聞くので、やはり相談体制の充実は絶対必要です。ただやっぱりその解決に向けた取り組みを、それこそ、縦も横もやっぱり縦横に広げていただいて、連携をとっていただくということが、これまた、真ん中に座っていかないと、いろんな相談窓口をたらい回しになったりとか、結局それで疲れてしまうということがやっぱりあってはならないというふうに思っています。で、先ほど様々な困難を抱えるところの、③のところ、私この健康診断という言葉の部分でね、この間もちょっとお伝えしているように、LGBTQの方たちがどこでつまづくっていうと、やはりまだ小学校の中学年ぐらいから、健康診断のときに男は裸になれと言われて並ばされる、とか、それから、お風呂やトイレに泊りごとで行くときに、男は男、女は女っていう形で振り分けられて、結局そこに泊まりに行けない、というようなところから、やはり、</p>

	<p>不登校になったりとか、いろんな問題点が出てくるけど、結局言えない。これはだから、親にも言えない、というような状況というのはこの間、当事者の方たちは随分発信されているのでね、やはりそういうことも含めて、それが困難にならないような、教育の現場をしっかりと確保していく、とかいうようなことが大事だろうなど。で、先ほど貧困の話が少しありましたけど、この視点ものすごくやっぱり大事でね。特に女性の場合は、生理を経験をしていく。そしたら、貧困であるがゆえに、ナプキンが買えないとか、いろんな清潔にしなければならないというところはもちろん男性も一緒なんだけれども、女性のほうがやっぱり身体的な部分でリスクがある、というようなところへの、本気で配慮をしていくのかという部分もしっかりとそれぞれの施策に、活かしていただきたいというのと、もう一つが、Ⅲの7のライフステージのところの、性の生殖というところの母子保健の部分なんです。これはもう、言葉にしたらこのままなんですけれども、やはり若年者の妊娠の部分と、この間は、避妊の問題であるとか、それから中絶のことが随分大きな話題になってきていますけれども、やはり性というような形の部分と、残念ながら、妊娠をしてしまった時の対応というようなことも、まだまだオープンにはならない。けれども、しっかりと医療機関も市として持つてるわけですから、そのあたりのことも含めた、具体的な施策を、しっかりと相談窓口だけではなくて、そういう方向も持ったものをね、進めていただく方向で、計画が成り立っていったらいいなというふうに思いますので、ぜひそのところはよろしくお願いをします。</p>
<p>会 長</p>	<p>はい、ありがとうございました。かなり施策に何をを入れていくかという、具体的なお話しを言っていたかかと思えます。他、いかがでしょうか。どうぞ、●●先生。</p>
<p>委 員</p>	<p>すみません。あの6、7の施策の方向のところ、先ほどの話です。どう分類するかみたいなお話があったと思うんですけど、前のプランを見ていると、「ライフステージに応じた健康づくりの支援」の1、2、3という項目が、その「性と生殖に関する健康の増進と権利の擁護」のところであって、「ライフステージに応じた健康づくりの支援」のところ、このむしろ6の①の「女性・男性の更年期、ストレス、自殺防止に関する情報提供」とか、「青少年への薬物乱用防止」のところに入っているので、前のそこところは分類のままのほうが、なんかわかりやすいのかなという気がして、ライフステージの応じたっていいながら、この、なんていうんですかね、妊娠、出産とかの話だけになってるような、施策の方向がなってるような気がするんで、ちょっと何か前のこの「性と生殖に関する健康の増進と権利の擁護」にしたほうが、私自身は何かしっくりくるような感じがしたということで、何かそこを無くされた理由は何かあるのであれば、お聞きしたいなと思ったのが1点と。</p> <p>やっぱりその、先ほどのDVのところ、配偶者等からにするかパートナー等にするかっていう議論があったと思うんですけど、その施策の方向で書かれてる相談体制の充実とか被害者の安全確保っていう、ここで被害者とかその相談に来る被害者っていうのを、デートDVの被害者も含めての相談体制を作るっていう方針でいくのであれば、パートナーにするべきかなと思ったんですけど、やっぱり今、現状その相談に来られる方っていうのは、何ていうんですか、いわゆるDV防止法の定義の理由で受けられた方が多いと思うので、そこで行くんだったら配偶者等になるのかなと私自身は考えていたんですけど、実際そこまで拡大して、川西市は取り組むんだという姿勢を見せるのであれば、パートナーにするっていうのはありなのかなというふうに思いました。</p>
<p>会 長</p>	<p>はい、ありがとうございました。一つ目の振り分けですけども、この辺事務局もう1回プラン作ってらっしゃるので、整合性といいますかね、振り分けるときになぜこちらに入れたかっていう部分、もう少し、今の段階でご説明できるのであればしていただければ結構です。いかがですか。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>この部分を非常に悩みましてですね。この「性と生殖に関する健康の増進と権利の擁護」を、この「ライフステージに応じた健康づくりの支援」の下に括弧書きで、性と生殖の部分も含むみたいな感</p>

	<p>じで、両方ちょっと書いてたんです。何かいい表現がないかなとかって思ったんですけど、ちょっと思いつきません。すいません。それでちょっと、ライフステージ、一生を通じての健康についての支援ということで、包含されるかなというふうなことで、ちょっと一つにさせていただいたんですけど。ご指摘いただきまして、ちょっとまだまだだなと感じておりますので、またちょっと、この辺、表現なり、また、組み方なり、ちょっと再考したいなというふうに思います。</p>
<p>会 長</p>	<p>はい、わかりました。他、いかがでしょうか。本日のところは、今の感じでよろしいでしょうかね。そうしましたら、一応議事は今日は議題1、2と終わってですね、あと机の上に、パレットの方もチラシいただいて、三井さんご出席されてますので、ご説明いただけたらと思います。どうぞ、せっかくでするので、机上だけでは、もったいないので。はい、ぜひご紹介ください。</p>
<p>男女共同参画センターセンター長</p>	<p>男女共同参画センターの三井と申します。いつもお世話になっております。今後のご案内のチラシと、それから過去の去年のやったものをお配りさせていただきました。センターのほうでは、このプランに基づいて事業を企画し、全ての項目にあたって45項目がセンターに関わるんですけども、できるだけ推進を心掛けてるんですが、調査によると、センターの存在を知らないという数字がいつも半分ぐらいあって、どうしていったらいいかなって悩んでいるところです。今後もこのプランが、皆様のご協議の結果、改定されていくので、それでセンターもやっていくんですけども、同時にその社会情勢の変化っていうのは先ほどもお話にあるようにどんどん変わっていったるのを肌身で感じています。でするので、現場感覚を持ちながら、その中でその意識を変えるってそう簡単なことじゃない。さっき●●委員おっしゃったように。でもどうやって理念っていうのを伝えていったらいいのかっていうのを、今後も、いろんな講座を企画しながら、やっていきたいと思っておりますので、またセンターの事も啓発していただければうれしく思いますので、よろしく願いいたします。</p>
<p>会 長</p>	<p>はい、ありがとうございます。それでは本日予定しておりました議事内容、全て終了いたしましたので、ここで事務局の方に司会お渡しします。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>会長、どうもありがとうございます。本日いただきましたご意見、ご助言につきましては、意識調査の報告書また新しいプランの中に反映させていただきたいというふうに思います。それと調査報告書ですけども、3月末を完成の目途としております。完成いたしましたら、郵送等で各委員の皆様にお配りさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>それから、3月なんですけども、プラン見直しの専門部会を開催させていただき予定。日時は、3月14日13時30分からです。詳細につきましては、また後日、専門部会の委員さん6名の方に、ご連絡させていただきますので、よろしく願いいたします。それからですね、今日をもちまして、第10期の男女共同参画審議会の全体会議が終了いたします。今日で最後になられる方もいらっしゃると思います。2年間、審議会委員さんとしてご参加いただきまして、第3次男女共同参画プランの推進、それから今回実施しました意識調査につきまして、熱心にご意見等いただきまして、ありがとうございました。最後に、市民環境部の岡本部長よりご挨拶を申し上げます。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>(岡本部長挨拶)</p> <p>それでは、これをもちまして、本日予定の川西市男女共同参画審議会を閉会させていただきます。皆様どうもありがとうございました。</p> <p style="text-align: center;">～審議終了～</p>